

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 小学 1・2 年生部門

●審査員 A

皆さん全国大会からアジア大会に進まれただけあって、とてもよく弾かれていて感心致しました。

この年令で内容的にも技術的にも難しい曲をよく練習されていましたが、色々な表情を出すためにどんな響きを出したいか、実際に自分の出した音がどの様に響いているかということに、もっともっとよく神経を使って欲しいと思いました。

又。右手のメロディーをきれいに歌おうとして、左手が少し雑になってしまうことが多いようにも感じました。左で一定のテンポ感、リズム感を失わずに長いフレーズを作り、その上で右が自由に表現できる様、心がけていただくと更に素晴らしくなると思います。

●審査員 B

皆さんとてもよく準備され、全体的なレベルが高いと感じました。親御さんのお子さんを助ける姿にはいつも頭が下がります。親御さんのご協力なしには、これほど多くの偉大なリトル・アーティストの演奏を聴くことはできなかったでしょう！

この部門には舞曲が課されていますが、舞曲はその性質上、安定した拍が必要となります。テンポ・ルバートは多用しないようにしましょう。この段階の教育では、リズムに乗って演奏することが重要です。忘れてはならないのは、ショパンはメトロノームをよく使っていたということです…左手はオーケストラを率いる優秀な指揮者、そして右手はソリストであるべきです。メロディックな経過句では美しい旋律の流れが望ましいです。優れた歌手のように、旋律も呼吸していなければならないのです。物語で同じ文章を 2 度繰り返さないのと同じように、ダイナミックな陰影があればあるほど魅力的な演奏になります。人生と同じように、晴れの日もあれば曇りの日もあり、風が強い日もあれば、雨の日もあるのです。それらを音楽で感じとり、美しく表現しましょう…これからもがんばってください！

●審査員 C

小学校 1・2 年生で、これだけの曲が弾けることに先ずは感心します。

気になる点は

- ◎メロディーと伴奏のバランス。伴奏が大きく重いこと。
- ◎目的の音をもっとアピールしてほしい。
- バスの響きが足りない。
- ◎ペダルがにごる。
- ◎リズムのキレが悪い。拍子感を大切に。

◎音楽に流れがあるように。

○音色の変化を求めてほしい。

◎ピアノで大事なものは、指ではなく耳だと思います。どういう音を求めるのかを考え、出した音をよく聞き、味わってほしい。

☆さらに高みを目指して、頑張ってください。

●審査員 D

参加者の皆さん、先生そして親御さんお疲れさまでした。皆さんが力を合わせてアジア大会まで進まれたことと思います。

レベルは総じて高く、素晴らしい演奏が沢山ありました。

全般的に技術的な水準の高さ、曲の音楽的内容に沿った解釈とステージでの緊張感を上手に活用している姿が印象的でした。今後以下について更に注意してみてください。テンポの一貫性、明確な表現のコントラスト、適切なペダリング、適切なテンポの選択、伴奏の音と性格、カンティレーナの旋律の音質と力強さ、レガートのアーティキュレーション、長いフレーズにおける滑らかな語り口。

これからもがんばってください、成功を祈っています！

●審査員 E

6~8歳でテクニックも音楽性も高いレベルで圧倒されました。

しかし中には大人に弾かされている感が否めない演奏もありました。

自らの感性が溢れる演奏になるには、やはり普段からの生の演奏を聴いたり、CD、YouTubeを聴くなど家庭環境が大切ではないでしょうか。

●審査員 F

100人という沢山の子ども達の才能豊かなステージをきかせていただき日本でこんなに沢山の子ども達がすてきな舞台に立っているのかと思うとうれしくなります。

小さいので足台を全国各地から（重いのに）もってくるご家族。ステージ衣装もまるでファッションショーの様に色とりどりで100人皆がそれぞれ個性的。演奏をするというエネルギーとそのステージに欠ける意気込みを考えるとすべてはつながっているのだから、本当にこのショパンコンクールのアジア大会の意味があると考えます。この子どもたちが未来にむかってどんどん成長していくことは日本の宝だと考えます。素晴らしいコンクールをありがとうございます。また来年のアジアにむかって教育の意味をしっかりと私自身もがんばります。